

<調査1>

# 歯科診療所における 初診来院患者の実態調査 (第2年度)

## Do Project; The Survey 1

### Survey on New Patients Who Visit Dental Offices (2007th)

Our association recommend the member dental offices to record and accumulate clinical information on their patients. For this purpose, last year we started the research bussiness which annually compiles clinical information on new patients at the cooperative dental offices. This year, our second business year, 27 member dental offices participated in and compiled the basic clinical information on their new patients who visited them during January 1 to December 31, 2006. 10,555 patients fitted the survey requirements, compiling DMFT by 10 - 70 age group, DMFT by age from 5 to 20 year old, the number of remaining tooth by 20 and older age group (by 5 years) and the specific degree of periodontal disease development by age group and also by smoker and non-smoker. It clarifies that DMFT of 12 years old child is 1.68 and DMFT of 20 year-old adult is 7.76. It also clarifies that, regarding the correlation of smoking with periodontal disease progress, the more the cigarette consumption increases, the more the number of patients infected with middle periodontitis there are. The Survey of Dental Diseases by MHLW is a valuable data to comprehend the patient's actual condition on the national scale. It is the randomly selected and stratified household survey on the basis of National Livelihood Survey and is regarded to possess with higher reliability as field work. However, the numbers of sample patient are decreasing by every survey; the numbers of sample patient in the survey of 1957 were more than 30,000, but those in the survey of 2005 decreased to 4,606 (consultation rate was 37.2%), especially, there was a significant decrease in the adult between 20 and 24 year old to only 47 sample patients in all. There is a fear that the reliability to the survey declines. Our survey is a hospital statistics of the patients, not a survey over the nation. But the accumulation of epidemiological data at the clinical job site becomes increasingly important.

*J Health Care Dent. 2007; 9: 29-35.*

藤木 省三 Shozo FUJIKI, DDS

歯科医師 Private Practice

大西 歯科

兵庫県神戸市灘区山田町 2-1-1

Ohnishi Dental Clinic

2-1-1, Yamada-cho, Nada-ku, Kobe,

Hyogo 657-0064, Japan

伊藤 中 Ataru ITOU, DDS

歯科医師 Private practice

伊藤 歯科クリニック

茨木市舟木町 20-20

Itou Dental Clinic

20-20 Funaki-cho, Ibaraki, Osaka 567-

0828, Japan

キーワード: survey on new patients  
DMFT  
hospital statistics  
smoking

## はじめに

昨年, 私たちの研究会会員 30 診療室に 2005 年 1 月 1 日から 2005 年 12 月 31 日までに来院する初診患者のデータを集計した. その結果, 歯科疾患実態調査と同じような傾向があることがわかった. 今回は 2006 年 1 月 1 日から 2006 年 12 月 31 日までに来院した初診患者のデータを集計することにした.

## 調査方法

### 1. 調査に参加する診療所としての資格要件

- ①日本ヘルスケア歯科研究会の診療所であること
- ②初診患者の口腔内データとして, 小児は DMF 歯数, 成人は DMF 歯数, 残存歯数, 歯周病進行度, 喫煙経験の記録があること

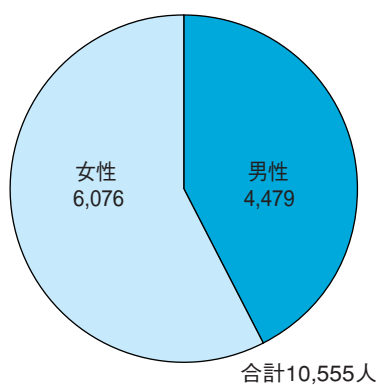


図1 初診患者の性別

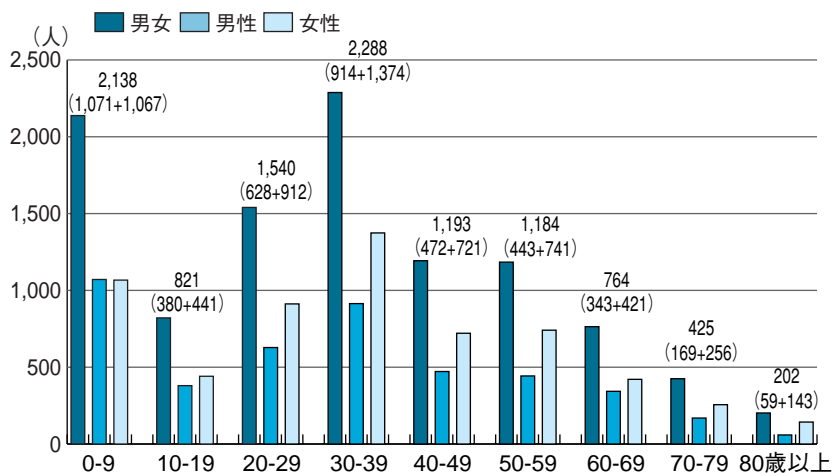


図2 初診患者数(年代別)

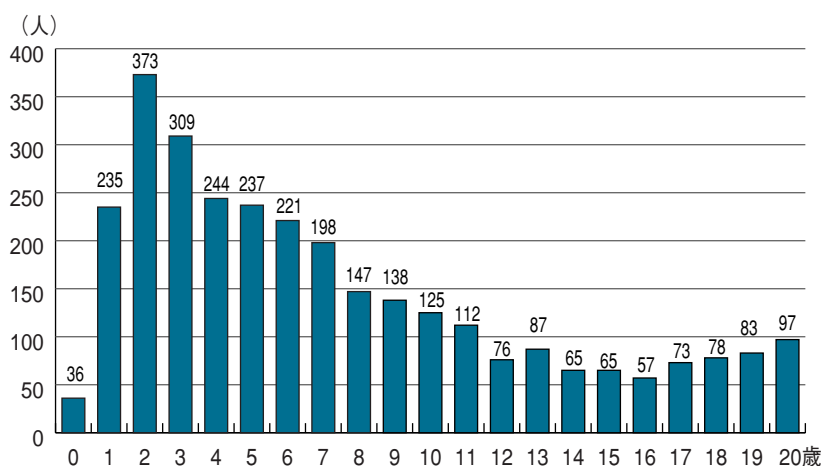


図3 初診患者数(0～20歳)

- ③資料をデジタルデータとして提出できること
- ④基本的に全員調査であること  
(ただし、口腔内および問診事項の  
情報に欠落がある患者があつても  
よいこととした)

## 2. 調査対象患者

2006年1月1日から2006年12月31日に来院した初診患者。初診患者とは、その診療室に全く初めて来院した患者とした。

## 3. 調査項目

- ①生年月日
- ②性別
- ③初診年月日
- ④初診時年齢

- ⑤20歳未満はDMF歯数
- ⑥20歳以上は
  - ・DMF歯数
  - ・残存歯数(智歯を含めない)
  - ・歯周病進行度(日本ヘルスケア・歯科研究会のプロトコルによる)
  - ・喫煙経験
  - ・喫煙開始年齢
  - ・現在の喫煙の有無
  - ・初診時における過去の喫煙総本数

## 4. 調査参加診療所の募集

調査参加診療所は、調査目的内容についてニュースレター等で告知し、会員から公募した。参加診療所は12都道府県27診療所である。

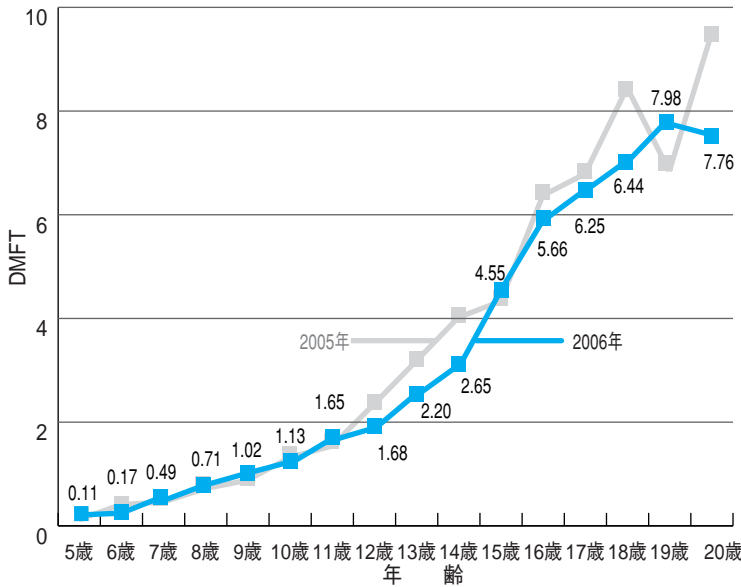
## 5. 調査データの回収・集計方法

調査データの回収用テンプレートを事務局から参加診療所へ送付し回収した。回収用テンプレートには患者氏名は含まないようにし、さらに事務局で診療所名が特定できないように匿名処理をしたうえで集計作業を行った。

回収された2006年1月1日から2006年12月31日までに来院した初診患者データは27診療所10,555名であった。

## 結 果

初診患者の性別、年代別と20歳までの年齢別の初診患者数、10～70歳以上の年齢別(10歳区分)DMFT、5～20歳まで年齢別DMFT、20歳以上年



年齢	男女		男性		女性	
	DMFT	人数	DMFT	人数	DMFT	人数
5歳	0.11	119	0.08	52	0.13	67
6歳	0.17	158	0.19	83	0.15	75
7歳	0.49	142	0.50	66	0.49	76
8歳	0.71	111	0.62	65	0.85	46
9歳	1.02	112	0.88	58	1.17	54
10歳	1.13	110	1.11	61	1.14	49
11歳	1.65	102	1.52	46	1.75	56
12歳	1.68	69	2.00	34	1.37	35
13歳	2.20	80	2.09	33	2.28	47
14歳	2.65	63	2.37	30	2.91	33
15歳	4.55	64	3.60	30	5.38	34
16歳	5.66	53	4.76	21	6.25	32
17歳	6.25	69	4.97	31	7.29	38
18歳	6.44	78	5.71	31	6.91	47
19歳	7.98	80	8.40	40	7.55	40
20歳	7.76	89	7.20	35	8.13	54

図4 初診患者のDMFT(5～20歳)

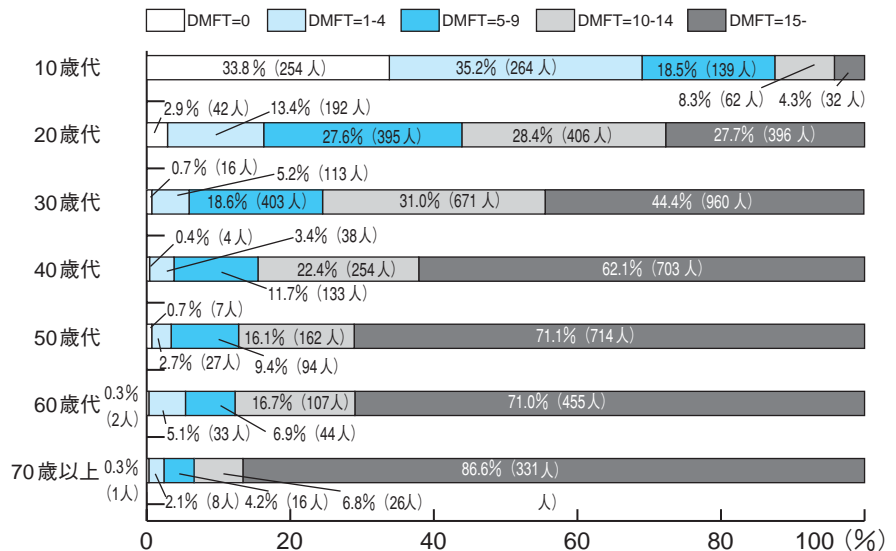
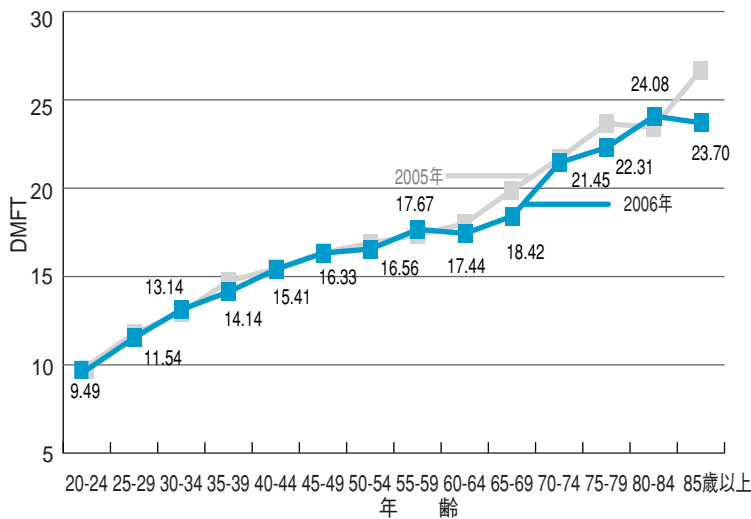


図5 初診患者の年代別 DMFT



年齢	男女		男性		女性	
	DMFT	人数	DMFT	人数	DMFT	人数
20-24歳	9.49	530	9.35	229	9.60	301
25-29歳	11.54	898	11.11	355	11.81	543
30-34歳	13.14	1,215	12.60	468	13.48	747
35-39歳	14.14	950	13.55	392	14.56	558
40-44歳	15.41	671	14.74	278	15.88	393
45-49歳	16.33	459	14.82	162	17.16	297
50-54歳	16.56	436	15.28	158	17.28	278
55-59歳	17.67	577	16.57	210	18.30	367
60-64歳	17.44	386	16.30	172	18.36	214
65-69歳	18.42	262	17.14	123	19.55	139
70-74歳	21.45	192	21.22	67	21.58	125
75-79歳	22.31	117	21.76	50	22.72	67
80-84歳	24.08	49	22.45	11	24.55	38
85歳以上	23.70	23	22.30	10	24.77	13

図6 初診患者の年齢階層別 DMFT(20～85歳以上)

20歳～85歳初診患者残存歯数(2005年)

年齢	男女		男性		女性	
	残存歯数	人数	残存歯数	人数	残存歯数	人数
20-24歳	27.7	530	27.8	229	27.7	301
25-29歳	27.5	898	27.7	355	27.5	543
30-34歳	27.3	1,215	27.4	468	27.3	747
35-39歳	27.1	950	27.1	392	27.1	558
40-44歳	26.5	671	26.5	278	26.6	393
45-49歳	25.9	459	26.1	162	25.7	297
50-54歳	25.0	436	24.9	158	25.0	278
55-59歳	23.8	386	23.4	210	24.1	367
60-64歳	22.9	577	22.7	172	23.1	214
65-69歳	21.2	262	21.8	123	20.7	139
70-74歳	17.7	192	16.7	67	18.2	125
75-79歳	15.9	117	17.3	50	14.9	67
80-84歳	11.6	49	15.8	11	10.3	38
85歳以上	8.4	23	11.8	10	5.8	13

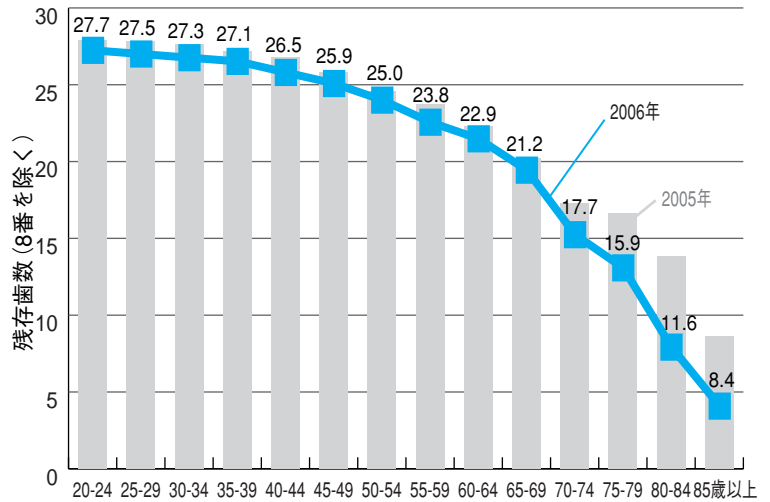


図7 初診患者の残存歯数(20～85歳以上)

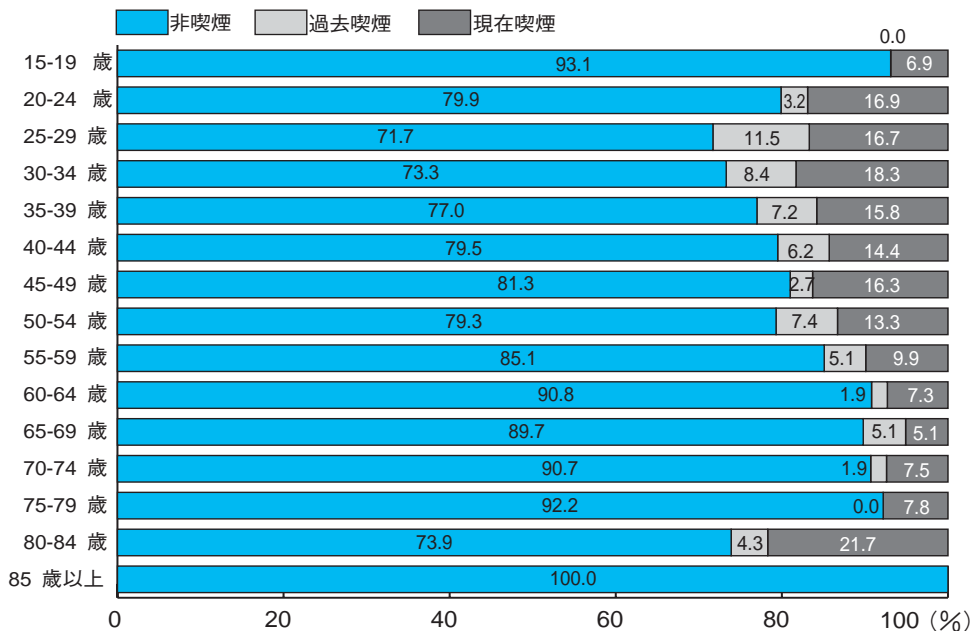


図8 非喫煙者・喫煙者率(女性)

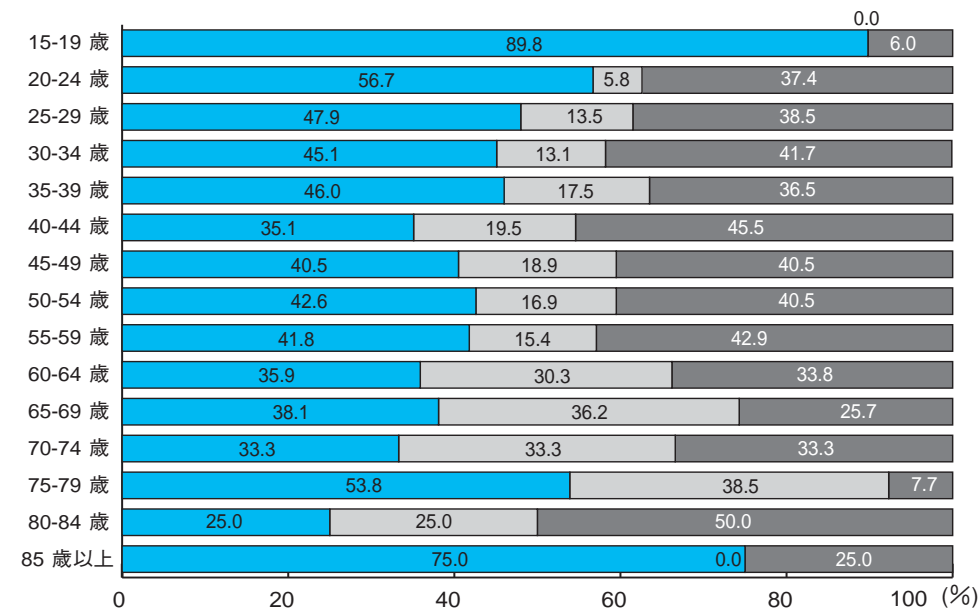


図9 非喫煙者・喫煙者率(男性)

年齢層別(5歳区分)残存歯数, 年齢層別歯周病進行度(全体, 非喫煙者, 喫煙経験者), 年齢層別非喫煙者と喫煙経験者の割合について集計した。

考 察

昨年に引き続き2006年の初診患者データを集計した。残念ながら今回は昨年に比較して参加診療所数が少なかったためデータ数も昨年より少

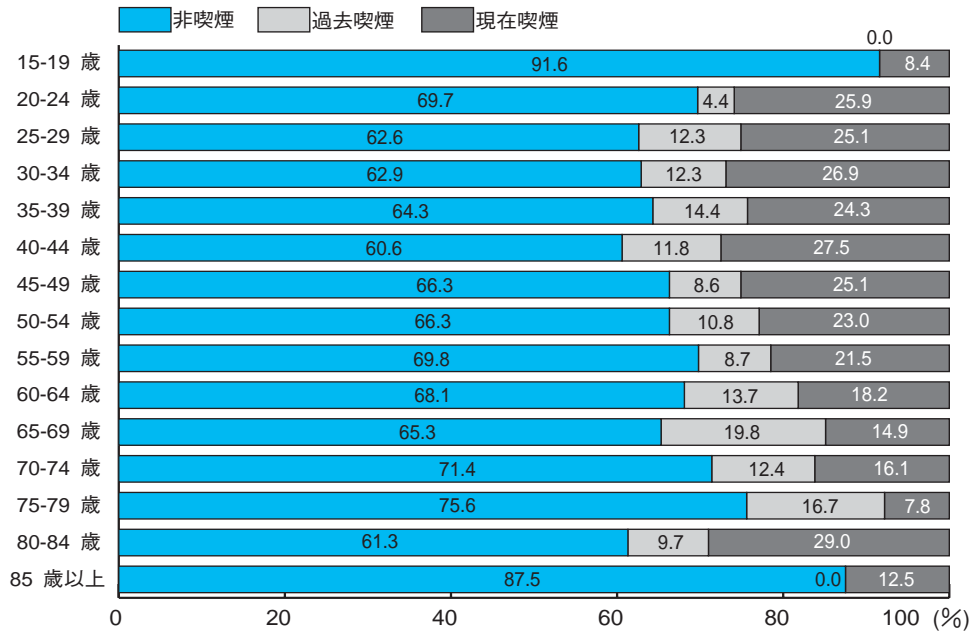


図10 非喫煙者, 喫煙者率 (全体)

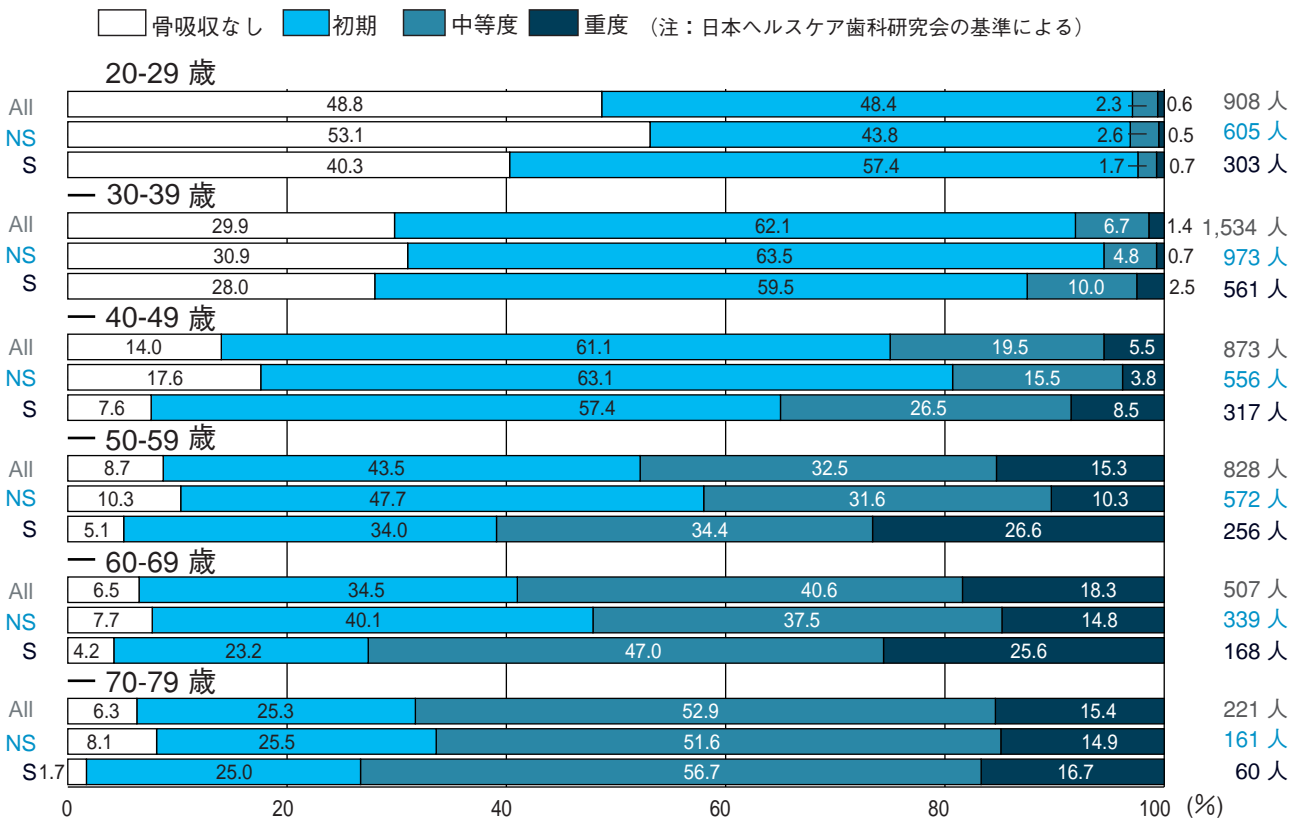


図11 喫煙と歯周病進行度 (ALL ; 対象者全員, NS ; 非喫煙者, S= 喫煙者) (80歳以上は対象人数が少ないので省いている)

ない結果となった。しかし、継続して行うことでより普遍性のあるデータが得られると考えられる。

年代別の初診患者数が昨年と同様に0歳から9歳が多く10歳から19歳が少ないのは、調査に参加した診療室の特質か一般的な傾向か判断することができない。今後、より多くの診療所が参加することで明らかになると思われる。

今回初めて集計した初診患者の非喫煙、過去喫煙、現在喫煙のデータからは、女性に比較して男性が圧倒的に喫煙経験者が多いことがわかる。また、女性では20歳代から40歳代に多く、近年の女性の喫煙率の上昇の傾向が現れている。私たち日本ヘルスケア歯科研究会の会員診療室では子供の頃から継続して来院する患者が多いため、診療室での子供に対する防煙教育をさらに充実させていかなければならないだろう。

前回の調査では喫煙に関して喫煙経験に関するデータに限られていたので、今回は現在喫煙中の人と過去には喫煙していたが現在は禁煙している人のデータを分けて取得するようにした。その結果からは禁煙に踏み切った患者もかなりの数があることがわかる。歯科医院での禁煙支援の重要性が今後ますます高まると予想される。将来の構想として、喫煙本数と歯周炎の進行との関連についても調べ診療室での禁煙支援に活かせることができないかと考えている。

**今回の調査結果からは、喫煙本数が多くなるほど中等度以上の歯周炎に罹患するリスクが高くなることが確認できた。**

国民的規模での歯科疾患の実態を把握するためには、厚生労働省による歯科疾患実態調査が貴重な資料である。この調査は、国民生活基礎調査により設定した単位区から層化無作為抽出した単位区内の世帯の調査であり、野外調査として信頼性が高いとされる。しかしながら、調査毎に被調査者数が減少し、1957年の調査で30,000人を超えていた被調査者数は2005年11月の調査では、4,606名(男性1,926名、女性2,680名、受診率37.2%)にまで減少している。とくに若年者の減少は著しく、20歳から24歳の男性を例にとるとわずかに合計47人の被調査者しかおらず、調査の信頼性への影響が懸念される。私たちの調査は、受診患者の調査であって国民を代表する調査ではないが、臨床の場での疫学データを蓄積する意義はますます高くなっている。

日本ヘルスケア歯科研究会は臨床の現場において疫学的なデータを示すことができる数少ない団体である。今後も継続して調査を続けていきたいと考えている。次回調査時にはより多くの診療室が参加されることを期待している。

今回の調査に参加した27診療所は次頁のとおりである。

医療施設名称 (医療法人名は省略)		院 長	調査者氏名
医社) 熊澤歯科クリニック	小樽市	熊澤 隆樹	熊澤隆樹・上浦庸司・坂口友朗・熊澤龍一郎・大島美和子・津川ひとみ・井口佳代・長谷川朋美・清水真理・桃井彩・猪口恵・栗林真弓・田村里枝・三関亜有美・依田ほのか・高橋桂子・川端さなえ・小笠原貴子・松浦景子
さいとう歯科	札幌市	斉藤 仁	斉藤 仁・阿蘇ゆかり・村中真由美・塚原紗希・蛭崎智恵美
福田歯科医院	函館市	福田 健二	福田治子・山岸有子・武佐真由美・木村綾子・岡田かなえ・佐野明日香
医) 加藤歯科医院	東根市	加藤 徹	阿部真喜子・高嶋美幸・板垣由美子・設楽美雪・森 真紀・斎藤ひとみ・菅原千奈美
国井歯科医院	山形市	国井 一好	佐藤康子・金子かおる・丸山佳子
医社) つくばヘルスケア歯科クリニック	つくば市	千ヶ崎乙文	千ヶ崎乙文
山口歯科医院	行方市	山口 将日	石神由香・藤崎沙織
征矢歯科医院	日立市	征矢 亘	白石由美・大平靖子・稲植民子・川村美由紀・田所真実・石川絵里香
わたなべ歯科	春日部市	渡辺 勝	吉田早織
田中歯科クリニック	川口市	田中 正大	田中正大
もりや歯科	坂戸市	森谷 良行	森谷良行・清水真由美・落合真理子
医) 鈴木歯科医院	蓮田市	鈴木 正臣	鈴木正臣・鈴木朋典・府川美佐子・長島恵美子・吉澤文枝・杉本絵美・宮澤裕美・秋山智美
文教通り歯科クリニック	千葉市	三辺 メイ	漆崎絵美・三辺正人
まさき歯科医院	習志野市	藪下 雅樹	秋庭 崇・星野東子・高橋康子・金田安江・北原あゆみ・秋山晶子・土屋紘子・石橋和枝・友部美好・藪下タミエ
医社) 杉山歯科医院	八千代市	杉山 精一	杉山精一
河野歯科医院	小平市	河野 正清	助川裕亮・武藤由美・川嶋紀子・田村 恵・井上恭子・山田美穂・野澤絵美・大島知佳・小美濃友美・山見利恵
江間歯科医院	甲府市	江間 誠二	手塚麻代・中村佳代・今井咲恵・藤巻寿美子
菊地歯科	三島市	菊地 誠	菊地 誠・深町和宏・井村典子・山下裕加・増山知美・前田理恵・碓井人望
伊藤歯科クリニック	茨木市	伊藤 中	伊藤 中
上田歯科医院	大阪市	上田 芳男	岩崎智子・有年庸子・青木美加・岡田麻美・小林律子・汐入真弓・福田智美
おおくぼ歯科	堺市	大久保 篤	大久保篤・大久保夏子
医) 西村歯科	泉大津市	西村 吉行	吉村友里・藤林真依子
たかぎ歯科医院	神戸市	高木 景子	高木景子・永山めぐみ・馬場亜紀・播磨照代・山田与志子
大西歯科	神戸市	藤木 省三	中村愛弓・野村朱美・小松美保・原田郁子・篠原千恵・信正結香
てらだ歯科クリニック	姫路市	寺田 昌平	寺田昌平・平野 綾・岩野佑治・中藤尚子・村上香織・北村美知枝・赤木仁美・井上真代・井上まどか・信沢美保・岡本理沙・藤野友子・松本伊都子・内堀美貴子・坂田知美・川口絵里加・三輪ゆかり・上村雅絵
倉敷医療生活協同組合 玉島歯科診療所	倉敷市	岡 恒雄	岡 恒雄
ワイエイデンタルクリニック	米子市	山中 渉	山中 渉